

さくらマンション小松川  
塗膜付着力試験実施報告書  
中性化深度測定報告書

## 物件概要

調査月日 : 令和5年8月24日(木)

調査物件名 : さくらマンション小松川

所在地 : 東京都江戸川区小松川2丁目10番1号

調査方法 : 塗膜付着力試験

調査診断者 : 株式会社象地域設計

測定実施者 : エスケー化研(株)厚木営業所

# 塗膜付着力試験

## 1) 塗膜付着力試験の目的

改修工事を行うに当たり一番問題となるのが、新たに施工する塗材と現状塗膜との密着性、現状塗膜と下地との密着性です。塗膜は経年と共にさまざまな要因により劣化症状を示します。本試験においては、現状塗膜と下地との密着性（付着力）を測定することにより、新たに施工する塗材が現状塗膜をケレン除去せずに塗り重ね可能か否かを判断します。

## 2) 測定機器その他

- ・ 簡易式付着力試験機
- ・ 鋼製アタッチメント
- ・ エポキシ樹脂系接着剤

## 3) 測定方法

- ①. 測定箇所を決め、エポキシ樹脂系接着剤（A剤・B剤）を練り合わせ、アタッチメントに塗り、壁面に接着する。
- ②. 接着剤が硬化するまで、ガムテープで固定する。
- ③. 接着剤硬化、ダイヤモンドカッターまたは、カッターによりアタッチメント四周に下地に達するまで切り込みを入れる。
- ④. 付着力試験機により破断した時点の数値を読み取る。

#### 4) 試験結果

今回、塗膜付着力試験を外壁（吹付タイル面）で1号棟、2号棟それぞれ東西南北4ヶ所、合計8箇所を実施しました。試験の結果は以下の通りです。

部 位	部 位	付着強度		判定
		(N/1600mm <sup>2</sup> )	(N/mm <sup>2</sup> )	
No.①	1号棟 塔屋東面 (吹付タイル面)	1 2 0 2	0. 7 5	○
No.②	1号棟 1F西面 (吹付タイル面)	2 0 6 6	1. 2 9	○
No.③	1号棟 12F南面 (吹付タイル面)	1 4 3 8	0. 9 0	○
No.④	1号棟 塔屋北面 (吹付タイル面)	8 0 2	0. 5 0	×
No.⑤	2号棟 1F東面 (吹付タイル面)	1 8 9 8	1. 1 9	○
No.⑥	2号棟 塔屋西面 (吹付タイル面)	1 7 1 2	1. 0 7	○
No.⑦	2号棟 13F階段 (南面) (吹付タイル面)	2 1 8 6	1. 3 7	○
No.⑧	2号棟 13F階段 (北面) (吹付タイル面)	4 4 9	0. 2 8	×

通常改修工事において、現状塗膜をケレン除去せずにそのまま塗り重ね施工できる付着強度の目安は、複層塗材E（吹付タイル面）で、0.7N/mm<sup>2</sup>以上（JIS A 6909）とされています。今回の試験では、実施箇所（吹付タイル面）8箇所中6箇所ですべて基準値を上回る試験結果が測定されております。このような健全な箇所では基本的に現状塗膜への塗り重ねには問題がないと判断されます。

しかしながら2箇所（1号棟、2号棟共に北面）で基準値を下回る結果が出ております。経年劣化と共に部分的に付着強度が落ちている箇所と言えます。このような箇所は脆弱部を除去し、パターン修正の後に改修塗装が必要になります。

今回、部分的ではありますが基準値以下の箇所が2箇所あったことから本測定値の判断にかかわらず、本施工前には建物全体の目視調査や打診調査を実施して頂き脆弱箇所が確認できれば適切な下地処理が必要と言えます。

写真集

写真. 1

塗膜付着力試験

アタッチメント設置



写真. 2

塗膜付着力試験

試験中



写真. 3

塗膜付着力試験

NO. ① 1号棟 塔屋 東面

測定値 1202N/1600mm<sup>2</sup>

破断面 モルタル内 100%

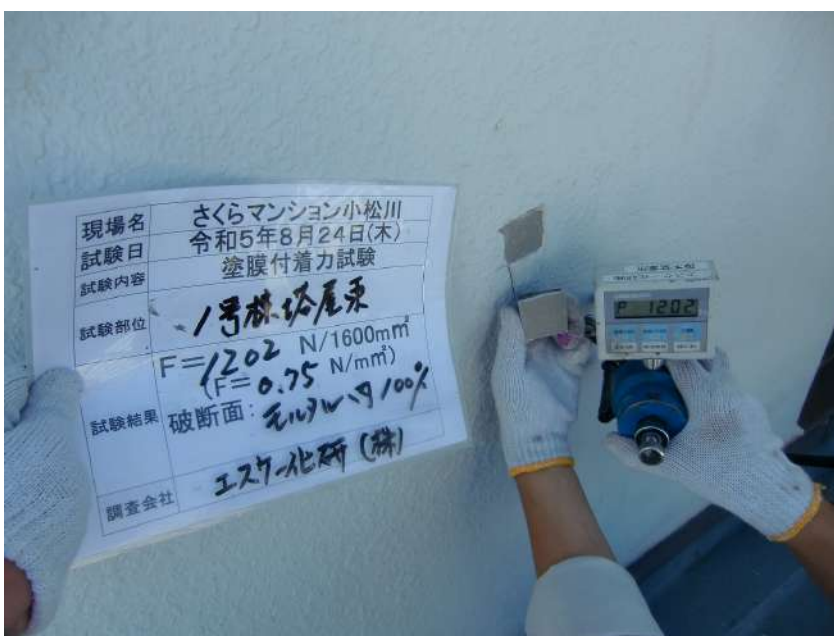


写真. 4



塗膜付着力試験

NO. ① 1号棟 塔屋 東面

破断面拡大

写真. 5



塗膜付着力試験

NO. ② 1号棟 1F 西面

測定値 2066 N/1600mm<sup>2</sup>

破断面 モルタル内 100%

写真. 6



塗膜付着力試験

NO. ② 1号棟 1F 西面

破断面拡大

写真. 7

塗膜付着力試験

NO. ③ 1号棟 12F 南面

測定値 1438 N/1600mm<sup>2</sup>  
破断面 モルタル内 100%



写真. 8

塗膜付着力試験

NO. ③ 1号棟 12F 南面

破断面拡大



写真. 9

塗膜付着力試験

NO. ④ 1号棟 塔屋 北面

測定値 802 N/1600mm<sup>2</sup>  
破断面 モルタル内 50%  
躯体内 50%





写真. 10



塗膜付着力試験

NO. ④ 1号棟 塔屋 北面

破断面拡大

写真. 11



塗膜付着力試験

NO. ⑤ 2号棟 1F 東面

測定値 1898N/1600mm<sup>2</sup>

破断面 モルタル内 100%

写真. 12



塗膜付着力試験

NO. ⑤ 2号棟 1F 東面

破断面拡大

写真. 13

塗膜付着力試験

NO. ⑥ 2号棟 塔屋 西面

測定値 1712 N/1600mm<sup>2</sup>

破断面 モルタル内 100%



写真. 14

塗膜付着力試験

NO. ⑥ 2号棟 塔屋 西面

破断面拡大



写真. 15

塗膜付着力試験

NO. ⑦ 2号棟 13F 階段 南面

測定値 2186 N/1600mm<sup>2</sup>

破断面 モルタル内 100%



写真. 16



塗膜付着力試験

NO. ⑦ 2号棟 13F 階段 南面

破断面拡大

写真. 17



塗膜付着力試験

NO. ⑧ 2号棟 13F 階段 北面

測定値 449N/1600mm<sup>2</sup>

破断面 塗膜内 100%

写真. 18



塗膜付着力試験

NO. ⑧ 2号棟 13F 階段 北面

破断面拡大

# コンクリート中性化深度測定 (フェノールフタレイン法による)

## [ 調査目的 ]

測定した中性化深さと経年（材令）から算出した中性化深さと比較し、その進行状況から調査対象の余命、劣化状況を推理することを目的とする。

## [ 調査方法 ]

付着力試験箇所周辺にφ40 mm、深さ20 mm程度を窄口して試験体を取り出し、フェノールフタレイン1%溶液を吹き掛け試験体の発色反応を調査する。コンクリート打設表面より発色域までの深さを中性化深さとして測定する。

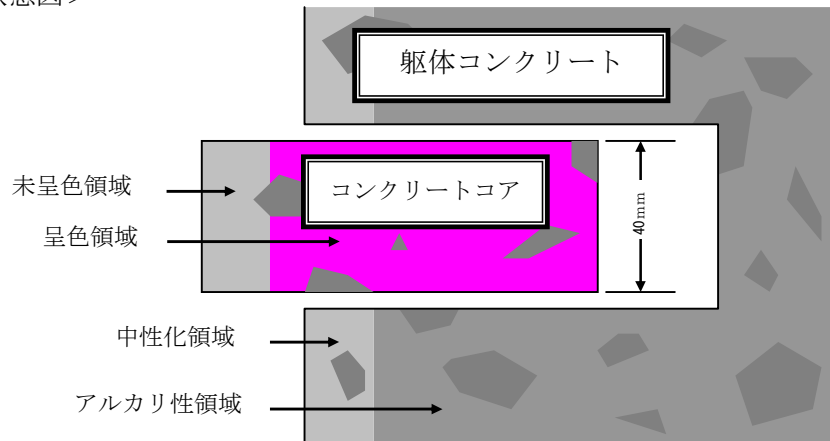
### [中性化進行によるコンクリートの劣化]

コンクリートの中性化（炭酸化）とは空気中の炭酸ガス、亜硫酸ガスや酸性雨などによって内部の水酸化カルシウムが炭酸カルシウムに変化してしまう現象等をいいます。

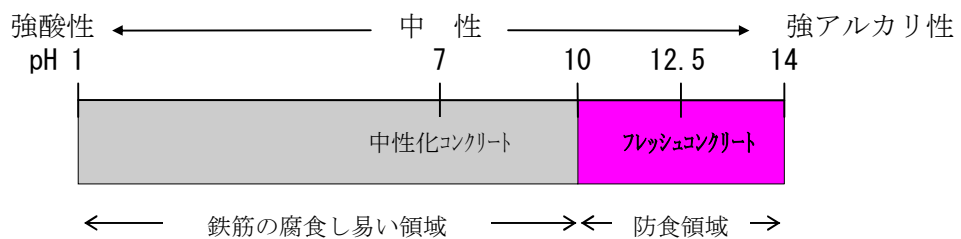
新設のコンクリートは強アルカリ性であるために鉄筋コンクリート中の鉄筋の表面には不動態皮膜と呼ばれる緻密な酸化皮膜が作られ保護されていますが、次第に中性化が進むことで不動態皮膜が破壊され徐々に鉄筋の腐食が進行します。この腐食により鉄筋に錆が生じて腐食量の2.5倍に体積膨張することで鉄筋周辺のコンクリートを押しつぶしてひび割れが発生します。さらに、このひび割れからいっそう雨水などが浸入しやすくなり鉄筋の腐食を助長させることとなります。

この中性化の進行具合によって鉄筋コンクリートの寿命が左右されます。

### [中性化深さの状態図]



### <pH と鉄筋の腐食との関係>



■調査結果

コンクリートの中性化速度は、打設時の水セメント比や圧縮強度、周辺環境等の諸条件により差はありますが、一般的に次式により表すことができます。

算出に用いる計算式 (浜田博士の提案式)

$$y = 7.2 X^2$$

$y$  : 期間 (建物の経過年数)  
 $X$  : 中性化深さ (cm)  
 7.2 : 中性化速度定数

仕上げ材による中性化速度比

仕上げ材なし (打放しコンクリート面)	塗 装	モルタル	張りタイル
1.00	0.71	0.58	0.38

当建物の仕上げ材の種類は複層塗材 (吹付タイル仕上げ) です。

上記 計算式に仕上げ材による中性化速度比を加え、現在までの理論値を求める。

- ・当建物コンクリートの中性化理論値 経過年数 26 年 (竣工 1997 年起算) より

$$26 = 7.2 X^2$$

$$X = \sqrt{(26 \text{ 年} / 7.2)} \times 0.71 \approx 1.349 \text{ cm (塗装面の中性化深さ理論値)}$$

$$X = 1.349 \text{ cm} = 13.49 \text{ mm}$$

文献 : コンクリート構造物の耐久性の内の中性化速度式による。

以上のことより塗装面の経年による本物件の理論中性化深度を求めると次のようになります。

**塗装面 13.49mm**

調査箇所	仕上げ	測定中性化深さ/mm	理論中性化深さ/mm
1 1号棟 12F 南面	吹付タイル	5.0	13.49
2 2号棟 13F階段 南面	吹付タイル	3.0	13.49

◎評 価

本建物の塗装面は試験箇所において、中性化の進行は理論値以下となっていることが確認されました。塗膜により中性化抑制がされていると判断されます。

写真集



調査箇所- 1

No.1 1号棟 12F 南面

5.0 mm



調査箇所- 1

No.2 1号棟 12F 南面

接写拡大





調査箇所- 2

No.3 2号棟 1 3F 階段 南面

3.0 mm

---



---



---



---



---



調査箇所- 2

No.4 2号棟 1 3F 階段 南面

拡大写真

---



---



---



---



---

---

---

施工仕様書  
水性弾性セラタイトF  
改修仕様／厚付け仕上げ

---

---

エスケー化研株式会社

SKK-201113G

# 施 工 仕 様 書

【一般外壁等 改修仕様／厚付け仕上げ】

仕様：水性弾性サーフェポ／水性弾性セラタイトF中塗材／水性弾性セラタイトF

## 1. 工程表

(23℃)

工 程	材 料	調 合 (重量比)	所要量 (kg/m <sup>2</sup> )	塗 り 回 数	間 隔 時 間(hr)		
					工程内	工程間	最終養生
下地調整	・旧塗膜に脆弱部のある場合は、サンダー及び皮スキ・ケレン棒などを用いて除去し、ミラクファンドKC-1000などで段差修正後、パターンの復元を行ってください。 なお、下地調整塗材(ミラクファンドKC-1000、ミラクファンドKC-2000、ミラクファンドKC-3000など)を用いる場合は、下地調整後、水性ミラクシーラーエコなどの下塗材を塗付してください。 ・高圧水洗(5～15MPa)にて旧塗膜に付着している塵、ほこり汚れなどを除去してください。						
下塗り	水性弾性サーフェポ	100	0.8～1.5	1～2	3以上	6以上	-
	清水	3～5	-				
中塗り	水性弾性セラタイトF中塗材	100	0.12～0.17	1	-	2以上	-
	清水	0～20	-				
上塗り	水性弾性セラタイトF 主剤	100	0.13～0.18	1	-	-	24以上
	水性弾性セラタイトF 硬化剤	5					
	清水	0～20	-				

- \* 下地調整の詳細は、当社「CRMS施工マニュアル」を参照の上適切な処理を行ってください。
- \* 中塗材の希釈率は、スプレー塗り時で「10～20」、刷毛・ローラー塗り時で「0～10」となります。
- \* 中塗材が塗装されていないと剥離や性能不良の原因となりますので、中塗材の塗り残しが無いよう塗装してください。
- \* 上塗材の希釈率は、主剤100に対して、スプレー塗り時で「10～20」、刷毛・ローラー塗り時で「0～10」となります。
- \* 中塗材及び上塗材の希釈率は、試験塗りなどにより決定し、それ以降は同一の希釈率にて使用してください。なお、希釈率は、色相および施工時の気温により変化することがあります。ご了承ください。
- \* 所要量は被塗物の形状、素地の状態、塗装方法、気象条件、希釈率等の各種条件により増減します。

SKK-201113G

## 2. 工 法

工 程	塗装方法	塗装器具	スプレー塗装の場合の塗装条件	標 準 塗回数
下塗り	ローラー塗り	マスチックローラー (M-9ローラー)	—	1~2
中塗り	ローラー塗り 刷毛塗り スプレー塗り	ウールローラー 刷毛 スプレーガン	スプレーガンの種類 エアレススプレーガン 吐出量:800~1000ml/分 パターン幅:25~30cm	1
上塗り	ローラー塗り 刷毛塗り スプレー塗り	ウールローラー 刷毛 スプレーガン	スプレーガンの種類 エアレススプレーガン 吐出量:800~1000ml/分 パターン幅:25~30cm	1

## 3. 材料荷姿

種 類	材 料 名	荷 姿	標準塗装面積
下塗材	水性弾性サーフェポ	16kg/缶	10~20㎡/缶
中塗材	水性弾性セラタイトF中塗材	16kg	94~133㎡/缶
上塗材	水性弾性セラタイトF 主剤	15kg/缶	87~121㎡/セット
	★ 水性弾性セラタイトF 硬化剤	0.75kg/缶	

## 4. 危険情報と安全対策

製品の取り扱いには、それぞれの安全データシート(SDS)に従ってください。  
特に、上記「材料荷姿」において、★印のついている製品は、溶剤形の製品であるため下記の点にご注意ください。

1. 引火性の液体のため、火気厳禁です。
2. 有機溶剤中毒のおそれがあるため、換気に注意し、防毒マスクまたは、送気マスクを使用するなどの安全対策を行ってください。
3. 施工においては、溶剤成分が室内に流入しないように十分注意してください。

## 5. 施工後の注意事項

本製品には、揮発性の化学物質が含まれております。塗装直後の引渡し等において、化学物質過敏症やアレルギー体質の方への安全対策に十分留意してください。

SKK-201113G

株式会社象地域設計 御中

## シーリング材劣化診断報告書

2023年 10月

シーカ・ジャパン株式会社  
コンストラクション事業部

平素は格別なる御高配を賜り、厚く御礼申し上げます。

下記の通り、さくらマンション小松川のシーリング防水調査の結果を御報告申し上げます。

当報告書は、調査部位の適切な改修診断、修繕の計画立案の資料とすることを目的とします。

また、調査結果に基づき適切であると考えられる改修計画を御提案致します。

宜しく御勘案の上、今後における建物の総合的な耐久性の維持・向上にお役立て頂きますようお願い申し上げます。

## — 目 次 —

1. 調査概要
2. 調査結果（現況報告）
3. 総合所見
4. 改修仕様の提案

別紙 調査写真



## 2. 調査結果（現況報告）

### 2-1. 目視による調査結果（サンプル採取箇所）

No.	部 位	現 況	劣化度
1	1号棟東面 屋上塔屋SD廻り目地	既存シーリング材はポリウレタン系と判定されました。 シーリング材表面は、塗装仕上げとなっており、塗装材の 汚れの付着が見られます。	I
2	1号棟西面 1階外壁誘発目地	既存シーリング材はポリウレタン系と判定されました。 シーリング材表面は、塗装仕上げとなっており、塗装材の ひび割れ、汚れの付着が見られます。	II
3	1号棟南面 1階SD廻り目地	既存シーリング材はポリウレタン系と判定されました。 シーリング材表面は、塗装仕上げとなっており、塗装材の 汚れの付着が見られます。	I
4	1号棟北面12階打継目地	既存シーリング材はポリウレタン系と判定されました。 シーリング材表面は、塗装仕上げとなっており、塗装材の 汚れの付着が見られます。	I
5	2号棟東面 1階サッシ廻り目地	既存シーリング材はポリウレタン系と判定されました。 シーリング材表面は、塗装仕上げとなっており、塗装材の 汚れの付着が見られます。	I
6	1号棟西面 屋上塔屋外壁誘発目地	既存シーリング材はポリウレタン系と判定されました。 シーリング材表面は、塗装仕上げとなっており、塗装材の 汚れの付着が見られます。	I
7	2号棟南面 6階SD廻り目地	既存シーリング材はポリウレタン系と判定されました。 シーリング材表面は、塗装仕上げとなっており、塗装材の 汚れの付着が見られます。	I
8	2号棟北面2階打継目地	既存シーリング材はポリウレタン系と判定されました。 シーリング材表面は、塗装仕上げとなっており、塗装材の 汚れの付着が見られます。あ	I

#### 【劣化度の判定基準】劣化度の分類及び判定基準より抜粋

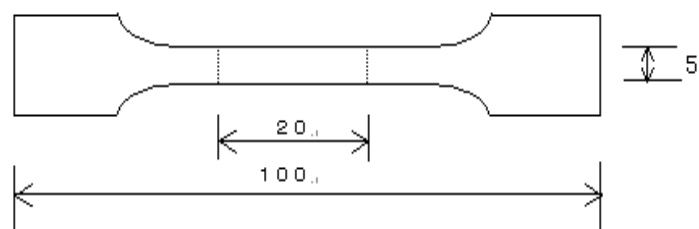
調査項目		劣化度		
		III	II	I
	シーリング材の被着面からの剥離	深さの1/2以上 又は深さ5mm以上	深さの1/4~1/2 又は深さ2~5mm	深さ1/4未満又は 深さ2mm未満
	シーリング材の破断 (口開き)	厚みの1/2以上 又は深さ5mm以上	厚みの1/4~1/2 又は深さ2~5mm	厚みの1/4未満 又は深さ2mm未満
意匠 外観 関連	変退色	変退色が極めて著しい	変退色がかなり認められる	変退色がわずかに認められ る
	ひび割れ	ひび割れ幅1~2mm	ひび割れ幅0.5~1mm	ひび割れ幅0.5mm未満
	白亜化 (チョーキング)	指先に粉末が極めて多量に 付着する	指先に粉末がかなり付着す る	指先に粉末がわずかに付着 する
	仕上材の浮き、変色	剥離や変色が認められる	ひび割れ、浮きがある。やや 変色している	左の減少が軽微である
	シーリング材の変形 (ダレ、クビレ)	凸凹が厚みの1/2以上 又は深さ5mm以上	凸凹が厚みの1/4~1/2 又は深さ2~5mm	凸凹が厚みの1/4以上 又は深さ2mm未満
	シーリング材の軟化	指先にきわめて多量に付着	指先にかなり付着	指先にわずかに付着
断 診	防水機能関連 意匠・外観関連	補修が必要	現状放置可能 但し、早い時期に補修が必要	現状放置可能



## 2-2. ダンベル物性試験による調査結果

### 2-2-1. 試験方法

1. 採取したサンプルをカッターナイフにより厚さ約3mmにスライスし、JIS K 6251(加硫ゴムの引張試験方法)に規定するダンベル状3号形に打ち抜き、試験体とする。(下図参照)
2. 試験体を引張試験機にかけ、200mm/分の引張速度で破断するまで引張り、伸びが50%時の引張応力ならびに最大引張応力、最大伸び率を求める。
3. 硬度はJIS K 6253(加硫ゴムの硬さ試験方法)に規定されているスプリング式硬さ試験機A形により測定する。
4. 材種判定は蛍光X線分析を行う。



ダンベル3号 形状図

### 2-2-2. ダンベル試験結果

調査箇所	材種	引張試験			
		50%引張応力	破断時の伸び	劣化度	
		(N/mm <sup>2</sup> )	(%)		
1	1号棟東面 屋上塔屋SD廻り目地	ポリウレタン系	0.14	539	I
2	1号棟西面 1階外壁誘発目地	ポリウレタン系	0.10	568	I
3	1号棟南面 1階SD廻り目地	ポリウレタン系	0.17	389	II
4	1号棟北面12階打継目地	ポリウレタン系	0.25	264	II
5	2号棟東面 1階サッシ廻り目地	ポリウレタン系	0.29	371	II
6	1号棟西面 屋上塔屋外壁誘発目地	ポリウレタン系	0.14	583	I
7	2号棟南面 6階SD廻り目地	ポリウレタン系	0.13	562	I
8	2号棟北面2階打継目地	ポリウレタン系	0.22	217	II

[劣化度の判定基準] 劣化度の分類及び判定基準より抜粋

調査項目			劣化度		
			III	II	I
物性	50% 引張応力 (M50)	測定値	0.6N/mm <sup>2</sup> 以上、 0.03N/mm <sup>2</sup> 以下	0.4~0.6N/mm <sup>2</sup> 、 0.03~0.06N/mm <sup>2</sup>	0.4N/mm <sup>2</sup> 以下、 0.06N/mm <sup>2</sup> 以上
	伸び (E)	測定値	200%以下	200~500%	500%以上
診断	シーリング材の物性		補修が必要	現状放置可能 但し、早い時期に補修が 必要	現状放置可能

2-2-3. 材種判定結果

物件名: さくらマンション小松川										
試料No.	元素濃度(%)									材種判定
	Si	S	Cl	Ca	Ti	Sn	Pb	Zn	Bi	
1	0.20	0.08	0.64	96.07	2.75	<b>0.04</b>	0.03	0.17	0.01	PU-2
2	0.24	0.09	0.76	96.10	2.76	<b>0.02</b>	0.02	0.01	0.01	PU-2
3	0.20	0.07	0.69	97.28	1.04	0.01	0.07	0.46	<b>0.18</b>	PU-2
4	0.21	0.07	0.86	96.99	1.08	0.01	0.05	0.30	<b>0.43</b>	PU-2
5	0.26	0.08	0.63	97.26	1.03	0.01	0.11	0.25	<b>0.36</b>	PU-2
6	0.19	0.08	0.65	96.25	2.74	<b>0.03</b>	0.04	0.00	0.01	PU-2
7	0.20	0.08	0.79	96.04	2.82	<b>0.03</b>	0.03	0.01	0.01	PU-2
8	0.21	0.08	0.65	97.30	1.02	0.01	0.08	0.25	<b>0.40</b>	PU-2

蛍光X線分析で、サンプルNo.1~No.8は、Sn（スズ）の濃度およびBi（ビスマス）の濃度およびその他の元素濃度から、材種は2成分形ポリウレタン系と判断されます。

### 3. 調査に基づく所見

前述の調査結果、現況を踏まえ各部位の劣化状態を判断すると以下の通りとなります。

サン プル No.	調査部位	劣化度		
		目視	物性	総合
1	1号棟東面屋上塔屋SD廻り目地	I	I	I
2	1号棟西面1階外壁誘発目地	II	I	II
3	1号棟南面1階SD廻り目地	I	II	II
4	1号棟北面12階打継目地	I	II	II
5	2号棟東面1階サッシ廻り目地	I	II	II
6	1号棟西面屋上塔屋外壁誘発目地	I	I	I
7	2号棟南面6階SD廻り目地	I	I	I
8	2号棟北面2階打継目地	I	II	II

[劣化度の判定基準] 添付資料の「劣化度の分類及び判定基準」をご参照下さい。

今回の調査から、ダンベル物性試験結果では、サンプルNo.3, No.4, No.5, No.8 においては、破断時の伸びの値に劣化が見られ、劣化度IIの判定となりました。目視外観調査においては、塗装目地では、塗装材のブリード、ひび割れ、汚れの付着が確認されました。

又、皿板目地の露出目地では変退色や汚れの付着が見られ、一部に剥離が確認されました。

従いまして、総合的には劣化度II（現状放置可能。但し早い時期に補修が必要）と判定されました。

今後更に意匠性能や防水性能の劣化が進行していくと思われます。室内への漏水へと繋がる前に、当建物の防水改修工事を実施する事をお薦めします。

#### 4. 改修仕様の提案

シーリング材にはさまざまな材種がありますが、用途及び施工部位の施工性、防水性能の信頼性、意匠性を考慮し、下記の改修仕様を御提案致します。

- ① 既存シーリング材を、カッターナイフ等を用い撤去し、目地部を清掃する。
- ② 既存が油性コーキング材の場合は、油性改修用プライマーを用いる。
- ③ 目地周辺を、マスキングテープ等を用い養生する。
- ④ プライマーを、刷け等を用い塗布する。
- ⑤ プライマー乾燥後、シーリング材を充填する。
- ⑥ シーリング材充填後、へら等で押え仕上げる。
- ⑦ 仕上げ後、養生テープを除去する。

#### 〔推奨品番〕

仕上げ	分類	主な特性	製品名
<b>【塗装面】</b> 打継・誘発目地 建具廻り 他塗装部位	2成分形ポリウレタン系 ノンブリードタイプ	被塗装性	<b>Hamatite SC-PU2NB</b> プライマーNo.30
<b>【露出面】</b> サッシ・SD 皿板目地 他露出仕上げ部位	2成分形変成シリコーン系	耐候性 意匠性 追従性	<b>Hamatite SC-MS2NB</b> <b>/SUPER II</b> プライマーNo.40, プライマーNo.18
<b>【土間タイル目地】</b>	2成分形ポリサルファイド系	高硬度 速硬化性 耐候性	<b>Hamatite SC-DM2</b> プライマーNo.40

以上



No. 1  
1号棟東面屋上塔屋SD廻り目地

サンプル採取前



No. 2  
1号棟東面屋上塔屋SD廻り目地

サンプル採取後



No. 3  
1号棟東面屋上塔屋SD廻り目地

補修後



No. 4  
1号棟西面1階誘発目地

サンプル採取前



No. 5  
1号棟西面1階誘発目地

サンプル採取後



No. 6  
1号棟西面1階誘発目地

補修後



No. 7  
1号棟南面1階SD廻り目地

サンプル採取前



No. 8  
1号棟南面1階SD廻り目地

サンプル採取後



No. 9  
1号棟南面1階SD廻り目地

補修後



No. 10  
1号棟北面12階打継目地

サンプル採取前



No. 11  
1号棟北面12階打継目地

サンプル採取後



No. 12  
1号棟北面12階打継目地

補修後





No. 13  
2号棟東面1階サッシ廻り目地

サンプル採取前



No. 14  
2号棟東面1階サッシ廻り目地

サンプル採取後



No. 15  
2号棟東面1階サッシ廻り目地

補修後



No. 16  
2号棟西面屋上塔屋誘発目地

サンプル採取前



No. 17  
2号棟西面屋上塔屋誘発目地

サンプル採取後



No. 18  
2号棟西面屋上塔屋誘発目地

補修後



No. 19  
2号棟南面6階SD廻り目地

サンプル採取前



No. 20  
2号棟南面6階SD廻り目地

サンプル採取後



No. 21  
2号棟南面6階SD廻り目地

補修後



No. 22  
2号棟北面2階打継目地  
サンプル採取前



No. 23  
2号棟北面2階打継目地  
サンプル採取後



No. 24  
2号棟北面2階打継目地  
補修後

# シーリング材仕様書

工 法: 2成分形変成シリコーン系シーリング材再充てん工法  
(ノンブリードタイプ) 耐久性区分「9030」

適用部位: タイル目地・建具廻り目地、PC、金属パネル等の露出される部位

使用材料: シーカ・ジャパン株式会社  
プライマーNo.40、プライマーNo.18  
2成分形変成シリコーン系シーリング材 「Hamatite SC-MS2NB/SUPER II」  
カラーマスター各色

工 程		
撤 去	・既存のシーリング材を切り取るなどの適切な方法で除去する	
下地処理 清 掃	・目地のほこりや油分等を除去し、清掃溶剤を用いて清掃を行う	
バックアップ材	・バックアップ材が必要な場合は、継ぎ目等がないように目地底に装てんする	
養 生	・目地周辺を汚さないように、目地に沿って養生テープを張る	
プライマー	プライマーNo.40、プライマーNo.18 共に(500g)	0.1~0.3kg/m <sup>2</sup> オープンタイム30分(20℃)
シーリング材	2成分形変成シリコーン系 シーリング材 「Hamatite SC-MS2NB/SUPER II」 (4L/セット) カラーマスター各色 (155g)	混合はシーリング材 専用混合機械で 15分程度(縞目模様が無くなるまで)

## [注意事項]

- ・プライマーは塗りむら、塗り残しがないように十分に塗布して下さい。
- ・薄層未硬化現象を生じることがあるので、養生テープを被着面に食い込まないように、かつ目地縁線に沿うように注意して張り付けて下さい。
- ・ガラス用途には使用できません。

# シーリング材仕様書

工 法: 2成分形ポリウレタン系シーリング材再充てん工法  
(ノンブリードタイプ) 耐久性区分「8020」

適用部位: 打継・誘発・建具廻り目地等の塗装される部位

使用材料: シーカ・ジャパン株式会社  
プライマーNo.30  
2成分形ポリウレタン系シーリング材「Hamatite SC-PU2NB」

工 程		
撤 去	・既存のシーリング材を切り取るなどの適切な方法で除去する	
下地処理 清 掃	・目地のほこりや油分等を除去し、清掃溶剤を用いて清掃を行う	
バックアップ材	・バックアップ材が必要な場合は、継ぎ目等がないように目地底に装てんする	
養 生	・目地周辺を汚さないように、目地に沿って養生テープを張る	
プライマー	プライマーNo.30 (500g)	0.1～0.3kg/m <sup>2</sup> オープンタイム30分(20℃)
シーリング材	2成分形ポリウレタン系 シーリング材「Hamatite SC-PU2NB」 (6L/セット)	混合はシーリング材 専用混合機械で 15分程度(縞目模様が無くなるまで)

## [注意事項]

- ・プライマーは塗りむら、塗り残しがないように十分に塗布して下さい。
- ・ガラス用途には使用できません。
- ・露出での使用を避けて下さい。

# シーリング材仕様書

工 法: 2成分形ポリサルファイド系シーリング材再充てん工法  
耐久性区分「8020」

適用部位: 石目地等の露出される部位

使用材料: シーカ・ジャパン株式会社  
プライマーNo.40  
2成分形ポリサルファイド系シーリング材 「Hamatite SC-PS2」  
カラーマスター各色

工 程		
撤 去	・既存のシーリング材を切り取るなどの適切な方法で除去する	
下地処理 清 掃	・目地のほこりや油分等を除去し、清掃溶剤を用いて清掃を行う	
バックアップ材	・バックアップ材が必要な場合は、継ぎ目等がないように目地底に装てんする	
養 生	・目地周辺を汚さないように、目地に沿って養生テープを張る	
プライマー	プライマーNo.40 (500g)	0.1～0.3kg/m <sup>2</sup> オープンタイム30分(20℃)
シーリング材	2成分形ポリサルファイド系 シーリング材「Hamatite SC-PS2」 (4L/セット) (4L/セット) カラーマスター各色	混合はシーリング材 専用混合機械で 15分程度(縞目模様が無くなるまで)

## [注意事項]

- ・プライマーは塗りむら、塗り残しがないように十分に塗布して下さい。
- ・ガラス用途には使用できません。

# シーリング材仕様書

工 法: 2成分形ポリサルファイド系シーリング材(土間目地)再充てん工法

適用部位: 土間、床目地(タイル・石・コンクリート)、段床板

使用材料: シーカ・ハマタイト株式会社

プライマーNo.40

2成分形ポリサルファイド系シーリング材(土間目地用)「Hamatite SC-DM2」

カラーマスター各色

工 程		
撤 去	・既存のシーリング材を切り取るなどの適切な方法で除去する	
下地処理 清 掃	・目地のほこりや油分等を除去し、清掃溶剤を用いて清掃を行う	
バックアップ材	・バックアップ材が必要な場合は、継ぎ目等がないように目地底に装てんする	
養 生	・目地周辺を汚さないように、目地に沿って養生テープを張る	
プライマー	プライマーNo.40 (500g)	0.1~0.3kg/m <sup>2</sup> オープンタイム30分(20℃)
シーリング材	2成分形ポリサルファイド系(土間目地用) シーリング材「Hamatite SC-DM2」 (4L/セット) (4L/セット) カラーマスター各色	混合はシーリング材 専用混合機械で 15分程度(縞目模様が無くなるまで)

## [注意事項]

- ・プライマーは塗りむら、塗り残しがないように十分に塗布して下さい。
- ・ガラス用途には使用できません。